



## 個性の尊重と教育改革

会長 染田屋謙相

全個教連が設立されてから1年が経過しようとしています。その間、顧問、副会長、理事、事務局をはじめ多くの方々の励ましとご協力により目覚ましい発展をとげつつあることは、喜びにたえないところです。

このように、連盟が多数の教育者の賛同と支持を得たのは、わが国の教育がまさに改革期を迎えるつあるからであると言ってよいでしょう。

臨時教育審議会の論議も次第に白熱化し、世人の関心を呼んでいます。「教育の自由化」から「個性主義の尊重」へ、さらに「個性の尊重」と変わってきています。いずれにしても、教育改革の理念に「個性の尊重」がとりあげられたことは、わが国の学校教育の画一化、硬直化を打破する上できわめて重要な意味をもっています。

全個教連の提唱する「指導の個別化」、「学習の個個化」も、ひっこう「個性尊重」の理念に根ざすもので、一人ひとりの個人差に応じ、個性の伸長に役立つ教育内容、教育方法を開発しようとするものです。

さきに「個人差に応じる学習指導事例集」を刊行した文部省は、「個人差に応じた学習指導に関する調査研究協力者会議」を発足させるとともに、首都圏を中心に、公立の小・中計20校を研究校に指定しました。研究校では、①習熟度に応じた授業 ②個性・創造性を伸ばす授業 ③一斉授業のワク内での学習指導の多様化などが、それぞれ研究テーマとして、とりあげられています。これは、まさに画期的なことで、全個教連の運動の主旨とも一致するところであります。

このように、文部省が先頭に立って、学習指導の画一化を打破しようという試みがなされていることは、大変嬉しい限りですが、民間研究団体の研究・実践の成果も大いに生かしてもらいたいと思います。さもないと、戦後デモクラシーの新教育や大正デモクラシー新教育の轍を踏むことになります。確かに、この二つの時期の新教育は子どもの自発性、自主性、自己学習能力の育成をねらうあまり、自由放任に陥ったり、基礎・基本をおろそかにしたりする傾向がありました。そのため、基礎学力

の低下をきたし、再び体的知識を注入する伝統的な授業にかえっていました。

しかし、この時、文部省が民間研究団体の研究成果を生かし、新教育本来のねらいを達成するための諸条件の整備に援助の手を差しのべていたら、今日の教育とはまた別のものになり、画一化・硬直化を防ぐことになっていたのではないかでしょうか。

現在の状況は、大正・戦後の新教育が行なわれた時にくらべ、遙かにいろいろな点で恵まれています。コンピューターをはじめ、さまざまな教育機器・学習材の開発導入も容易になり、学習の個別化・個性化は教師の創意工夫によって実現されるにいたりました。

現場の教師の情熱と努力によって、この研究・実践がさらに進展し、わが国の教育改革の礎になることを願ってやみません。

## 夏季研修会

- テーマ 個別化教育のあり方と教材づくり
- 期日 昭和60年8月5日(月)～6日(火)
- 会場 板橋区教育相談所
- 所在地 東京都板橋区坂下2～18～1
- 電話 03(967)6181～2
- 交通 地下鉄・都営三田線「蓮根」下車3分
- 会費 5,000円(資料・材料費を含む)
- 講師 国立教育研究所主任研究官 加藤幸次先生 他
- 内容 第1日 個別化教育のあり方・実践  
(講義・協議・教材の紹介)  
第2日 個別化教育のための教材づくり  
(講義・協議・教材作成)

詳細は、折り込みをご覧ください。

# 「個人差に応じた学習指導に関する調査研究」 に参加するにあたって

副会長 加藤 幸次

新聞でもご承知のように、5月30日文部省で「個人差に応じた学習指導に関する調査研究協力者会議」がもたれました。この調査研究は3ヶ年にわたるもので、研究協力校として小学校12校、中学校10校が選ばれました。私もこの協力者の一人に加えさせていただいているのですが、文部省もいよいよ個別化教育の推進に乗り出しました。と考えてよいのではないかと思います。

一部の新聞はこの調査研究をとらえて、文部省が“能力別学習指導”をめざしているように報道しました。しかし、調査研究テーマはそのように狭いものではありません。中学校の研究テーマの例として次の三つが示されています。

- 1 学習内容の習熟の程度に応じた指導の工夫
- 2 個性や創造性を伸ばす学習指導の工夫
- 3 一斉授業における多様な指導方法の工夫

また、小学校の研究の観点として次の四つが示されています。

- 1 一斉授業における個別指導の工夫
- 2 弾力的な教授組織による学習指導の工夫
- 3 オープンスペースを活用した学習指導の工夫
- 4 学習の遅れがちな児童に対する補充指導の工夫

したがって、調査研究協力者会議もこのような幅広いテーマを研究協力校とともに追求して行くことになる、と思います。

全国個別化教育研究連盟としては、まさに、好機を迎えたと確信します。この機会に私たちの研究を深めることができる、と期待しますし、また、普及活動も盛んにすることができる、と考えます。まさに、順風に乗った感です。

しかし、そう言って喜んでいる訳にも行きません。私たちの足許を見れば、私たちは実は、まさに、マイノリティ・グループ（少数派）なのです。とても、理解されているといった状態ではないのです。やまり、気をはりつめて、逆風に立ち向って行かねばなりません。

逆風は、まず、いわゆる進歩派（？）と呼ばれる人々の集団主義教育の方から強く吹き出してきています。「一人の100歩より、100人の一步」とは、実に、美しい抵抗しがたいスローガンです。美しい助け合いの精神なのです。集団の進展のために個が献身する姿が浮び上ってきます。利己的な自己反省すれば、まことに、理想です。しかし、人間の成長とはそうは行かないのです。第一、一人残らず一步進むまで、100歩進むことのできる人間は待つことはできないのです。私たちは「一人ひと

り自分の歩調で進んでも、その中に調和や連帯をみつけたい」す願います。その方が人間の自然の成長に合っているはずです。

逆風は、また、いわゆる伝統派と呼ばれる人々の保守主義教育の方からも強く吹き出してきています。保守主義の人々は「学級集団」に、じたがって、「教室」に固執しています。一人の教師をリーダーとして、生徒たちはリーダーより教えを受けるフォロワーとなっています。そこでは、秩序がとれていて、これまた、美しいのです。まさに、「人間家族」です。しかし、リーダーとしての役割がはたせない教師がふえてきているようですし、生徒たちをいつもフォロワーにしておくわけに行きません。主体性や創造性をもった人間に育てなければ、21世紀社会は迎えられません。

今や、私たちは「一人ひとり」の生徒に照準を合わせて行かねばならないはずです。もちろん、「個」に照準を合わせるからといって、集団や学級を無視してよい、と言っている訳ではありません。私たちは、一度、思い切って「個」を集団や学級から切り離し、改めて、両者のあり方を考え直したいと考えているにすぎないのです。

私たちが今日もっている学校教育のあり方は、たしかに、100年の歴史をもつにすぎません。産業革命という産業社会の成立にともなって設けられ、産業社会を維持・発展させてきたのです。情報化社会とか、脱工業社会とかいわれる新しい社会に向って、学校教育は再編成されるにちがいありません。

強い逆風の中にあって、やっと、順風と吹き始めました。この好機をとらえて、個別化教育を推進したい、と考えます。

『講座 個別化・個性化教育』全5巻 黎明書房  
セット 10,600円

『個別化・個性化実践に学ぶ』小学校・中学校編  
明治図書 3,300円

全国個別化教育連盟会員にかぎり定価の8割で購入できます。下記へお申し込みください。

〒460 名古屋市中区丸の内3-4-10

大津橋ビル 黎明書房

武馬久仁裕 殿

電話 052-962-3045

## 空き教室を活用した 個別指導の充実

国立教育研究所・研修生

(在籍校・千葉県柏市立柏第三中学校)

松田 早苗

最近、児童数の減少に伴う「空き教室」の増加が問題となってきてている。従来はこの「空き教室」を特別教室や資料室・展示室などに活用するにとどまっている学校が多い。そこで「空き教室」をもっと積極的に活用し子どもたちの生活を豊かにするためや学習活動にも取り入れようと考えてきたのである。

柏第六小学校では、以上のような活用のしかたをめぐって、ここ2年間努力を続けてきた。というのも、昭和50年には1,400名をこえる児童が在籍していたが、団地校の宿命とでもいうのでしょうか、世代の交代期を迎えた。現在では19学級、約650名にまで減少しているからである。実質的な「空き教室」は14教室にまで増加している。このスペースを最大限に活用して、一人ひとりをみつめた教育を学校教育全体を通して取り組んでいくことにした。具体的には次の通りである。

- |           |         |
|-----------|---------|
| 1. 合科的学習  | (1年～3年) |
| 2. 自主学習   | (4年～6年) |
| 3. たけのこ学習 | (1年～6年) |
| 4. ざんか活動  | (4年～6年) |

「自主学習」「たけのこ学習」は、「仲よしルーム」と呼ばれる3教室づきの広い部屋を使って、学年単位で学習をするものである。前者は、算数科で実施し、子どもたちが自分の力で学習をすすめていく、単元内自由進度学習である。後者は、数と計算の領域を1年から6年まで134段階にわけ、カードで学習する、一種のはげみ学習である。朝自習の時間を使い、週に一度は取り組むものである。算数のほか、漢字、音楽、体育のカードも作成し、実践している。

低学年では、合科的学習を取り組んでいる。年間2～3の題材を選んで創意あふれる学習を展開している。例えば、「絵本づくり」(3年)、「人形けきをつくろう」(2年)などである。合科を取り組むのに「空き教室」はとても便利である。製作したものをそのまま置いておけるという利点がある。本校でも「学年ルーム」と名づけて各学年に1つ、「空き教室」を配置している。「ざんか活動」は学校裁量時間を使い、2時間づけて活動するものである。楽しい学校生活が送れるように、かつ、計画力・実践力を身につけさせるために、自分でテーマを決めて取り組むものである。全ての「空き教室」を使って活動をするものである。

一斉授業から一步でも二歩でも抜け出すために「空き教室」を使って多様な学習形態が組めるという利点を積極的に活用し、個別指導の充実に今後も努めていきたい。

## 東海個別化教育研究会 の結成

(東海地区支部)

発起人 加藤 幸治

昨年6月、全国個別化教育研究連盟が結成され、1年間の内に、会員が300名を超えるところまでに成長してきました。今後の連盟の発展を考えますと、「会報」の発行を通して情報の交換を促進していくことが重要ですし、また、「研究紀要」のような研究物を刊行して研究の交流を促進することも考えねばならないはずです。全国レベルの活動ということを考えると、夏に行なう研修会『個別化教育のあり方と教材づくり』も重要な活動になってくるはずです。また、海外視察なども考えて行きたいと思います。

こうした全国レベルでの連盟の活動とともに、日常の各地域での情報の交換や研究の交流が不可欠ではないかと考えます。関東地方には、すでに、「関東地区支部」のようなものが実質できあがっていて、これまでに金沢小学校で3回の研究会を開いています。会報で詳しくお知らせしている通りです。

このたび、6月22日㈯に東海地方に研究会を結成することにしました。名古屋を中心に研究会をもちますと、少々遠くなるのですが、現状では静岡県の方々にも加わっていただきて、愛知県、三重県、岐阜県の四つの県の方々で結成したいと考えました。

以下はあくまでも現在の予定ですが、会長には高木省三東浦町教育長がなられます。また、各県から副会長が選出される予定です。高橋開一島田市教育長(静岡県)、服部久和弥富北中学校長(愛知県)、田中知彦内部小学校長(三重県)、松岡勝治池田小学校長(岐阜県)の方々にお願いすることになると予定しています。

理事には初倉小学校、初倉南小学校、卯ノ里小学校、北部中学校、常盤東小学校、稻武町教育長、稻武小学校長、池田町教育長、閑ヶ原青年の家所長、東白河村教育長、池辺小学校長、養老町前教育長の方々に依頼したいと考えています。

事務局長は緒川小学校長にご依頼し、事務局を同校に置かせていただきたいと考えます。

この東海個別化教育研究会は全国個別化教育研究連盟の「独立した」支部のようなものと考えていただければよいのではないかでしょうか。東海地方での研究・研修を行ないながら全個教連と協力し合って、個別化教育を推進して行きたいと考えます。今後は、関東地方と同じように、2、3ヶ月に1回程度研究会を開いて行きたいと考えます。全個教連の日常活動を強化するために、全国にこのような地方研究会ができますことを期待します。

(60年6月13日)

## 事務局だより

事務局長 松崎 二葉

東京は今、梅雨空です。全国の会員の皆様には、それをお勤め先で、お元気にご活躍のことと存じあげます。

関東地区では、第3回研究会を、60.6.8(土)に開催いたしました。参加者約50名。前回なみの盛会でございました。

千葉県柏市立第六小学校の実践を、現在は国立教育研究所でご研究中の松田早苗先生に発表していただきました。

### 空き教室を活用した個別指導の充実

いわゆる空き教室が増えていく現象は、全国的な傾向だと思います。学級の教室でないから空イテイル教室ととらえること自体に違和感を持つがゆえに、とくに、いわゆると記してみました。学習の場を広く子どもに与えるのが本来の姿だとすれば、空きではなく開きであろうと考え思うのです。

閉話休題。いわゆる空き教室を、学習指導にかかわって、どのように活用していくかが、今日的な課題として取り上げられたことを、多としてやみません。(60.6.8)

### 60年度の会費を

この会は、会員の払い込む会費で運営されている会です。59年度のご協力を、心から感謝申しあげます。と同時に、60年度につきましても、よろしくお願い申しあげます。

記

1. 同封の郵便振替用紙によってお払い込みください。
2. 7月末日までに、おねがいします。
3. 会則の一部を抜いて印刷しておきましたのでそれによってください。

ご納入ください。

### 事務局会を

とき 60.5.9

染田屋謙相会長・加藤幸次副会長をはじめ、事務局員多数の出席を得て、開催。

記

1. 人事異動にともなう事務局組織の一部変更が決定した。

庶務部 部長 田村 邦太

副部長 奥田 實・佐藤 武男

新田 豊作・橋本 治典

会計部 部長 松山 雄一

副部長 佐藤 恵哲・唐木 進

新妻 則子

事務局長	坂田 鳩	研究部 部長	木下 紘正・三谷 恭平	
事務局次長	高田 哲・渡辺 茂	研修部 部長	中村満洲男	
松崎二葉	増田 和彦	副部長	倉上 保・大原 満夫	
済水 鳴根 昭一 ・小鷹 明夫	組織部 部長	上山 英昭	岩木 重夫・笠原 春雄	
	副部長	田中 清介	編集部 部長	新井 久
			副部長	梅川 三郎・渡邊 鈴一
				大谷 清子

### 2. 夏季研修会の開幕に備えた。

前号に予告しておいた研修会の細部について話し合った。

同封チラシのとおりである。

### 3. 10月下旬に研究会を開くことが内定した。

この研究会は、名称は「全国個別化教育研究連盟関東地区研究会」であるが、連盟の会員は、だれでも参加できる。

9月ごろには、日時等も決定するので、ご希望の向きはお問い合わせていただければ幸いである。

開きました

### すばらしい本を

### 講座 個別化・個性化教育

個別化・個性化教育の理論を第1巻とするこの講座は、全5巻から成っている。

本会の副会長でもある加藤幸次氏（国立教育研究所主任研究官）が関係諸学校の協力のもとに著述されたものである。

“教育は、生徒一人ひとりの中に成立してこそ意味がある”との信念のもとに、先進校の実践を教科別・学習別に網羅紹介された今日的名著であると思いました。

読みました。

連盟へのご用は.....

お問い合わせやご助言は

〒173 東京都板橋区加賀2丁目2番1号

板橋区立金沢小学校

電話 (03) 964-3068 (校長室)

全国個別化教育研究連盟事務局長 松崎 二葉

加入手づきは

〒174 東京都板橋区小豆沢4-13-1

板橋区立志村第四小学校

電話 (03) 966-3542

全国個別化教育研究連盟事務局次長 清水 昭